

競技運営に当たっての注意事項

1. 本大会は、2022年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項により実施する。
2. 新型コロナウイルス感染症防止対策について、定められた文書等を遵守すること。【別紙】
3. 招集について（招集所は100mスタート付近に設置する）
 - (1) 招集開始時刻（点呼開始時刻）及び招集完了時刻（移動開始時刻）は、競技開始時刻を基準とし、下記のとおりとする。種目別招集開始時刻・招集完了時刻は、プログラムの競技日程欄を参照のこと。招集開始時刻（点呼開始時刻）を厳守すること。

	招集開始時刻	招集完了時刻	現地集合完了時刻
トラック競技	25分前	15分前	10分前
フィールド競技	40分前	30分前	25分前

- (2) 受付は、招集所で選手本人が用紙に○をつけ、アスリートビブス・スパイク・衣類等の点検を受ける。
 - (3) 受付終了後、各自でスタート地点・ピットに移動し現地で点呼を受ける。現地集合完了時刻に遅れた競技者は欠場とみなす。
4. 競技について

(1) トラック競技について

- ① トラックのレーン順・フィールド競技の試技順は、プログラム記載順とする。
- ② トラック競技の計時は、すべて写真判定システムによる全自動計時（電気計時）を使用する。
- ③ レーンで行うトラック競技においては、欠場者のレーンは空ける。
- ④ 短距離種目では、競技者の安全のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走る。
- ⑤ 競技規則第162条7,8により、一度の不正スタートでも責任を有する競技者は失格とする。
- ⑥ ジャベリックボール投は主催者が準備するもの（ニシ・スポーツ製ジャベボール）を使用する。競技はやり投げのフィールドを使用し、助走距離は15m以内とする。
- ⑦ 80mHは、下表の規定にて行う。

S～第1ハドル	高さ	インターバル	台数	最終ハドル～G
13m	68cm	7m	9台	11m

(2) フィールド競技について

- ① 投てき競技の計測は科学計測装置を使用する。ただし、砲丸投については鋼鉄製巻尺計測とする。
- ② 跳躍及びやり投の競技者は、助走路の外側に主催者が用意したマーカー（走高跳は助走路内に各自の用意したマーカー）を2個まで使うことができる。また、サークルから行う投てき競技では、マーカーを1個だけ使用することができる。
- ③ 公式練習は、試技順に2回行う。
- ④ 小学男女のフィールド競技の試技は3回（コンバインド種目は2回）とし、ベストエイトは行わない。

(3) リレー競技について

- ① リレーに出場するチームは、所定の「リレー・オーダー用紙」に記入のうえ、招集完了時刻の1時間前までに、競技者係（招集所）に提出すること。一度申告したらその後の変更は、招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない（競技規則第170条11）。
- ② 4×100mリレーの第2、第3、第4走者は、各自用意したマーカー（1カ所）を使用することができる。マーカーは各チームで用意し、レース終了後に取り除くこと。5cm×40cm以内の大きさのもの
- ③ 4×100mリレーの全走者間のテイク・オーバー・ゾーンは30mとし、ゾーンの入口から20mが基準線となる。

5. 走り高跳びのバーのあげ方について

小学男女走り高跳びの跳躍方法ははさみ跳びとし、マットへは足からの着地を原則とする（背、腰等から落下した場合は無効試技とする）。走り高跳びのバーの高さは、次のとおりとする。但し、1等決定のための試技については2cm刻みにバーを下げる。

	練習	1	2	3	以降
高校一般男子	1m40・1m60	1m55	1m60	1m65	3cm刻みでバーを上げる
高校一般女子	1m20・1m40	1m30	1m35	1m40	
中学男子	1m30・1m40	1m40	1m45	1m50	
中学女子	1m10・1m20	1m20	1m25	1m30	
小学男子	0m80・0m95	0m90	0m95	1m00	5cm刻みでバーを上げ、男子130cm、女子125cm、以降は3cm刻みでバーを上げる
小学女子	0m80・0m95	0m90	0m95	1m00	

- ① 練習の高さは、競技者が上記の中からいずれかの高さを選択できる。
- ② コンバインド種目は、2回続けて失敗すれば試技終了となる。

6. 競技用具について

- (1) 投てき種目の区分（重さ）は、次のとおりとする。

砲丸投 男子 一般 (7.260kg) 高校 (6.0kg) 中学 (5.0 kg) 女子 一般・高校 (4.0kg) 中学 (2.72 kg) やり投 男子 (800g) 女子 (600g)

- (2) 試技用具は、主催者が用意したものを使用するものとするが、不足の場合は、選手の用具を検査し主催者で借り上げ使用する。

- (3) 1000m、800mを除く種目は、オールウェザー用のスパイクシューズ（ピンの長さ9mm以内）を使用してもよい。

競技用靴のスパイクのピンの長さは、9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投げは12mm以下とする。これらのスパイクの直径は、少なくとも長さの半分が4mm四方の定規に適合し、数は11本以内とする。

- (4) 靴底の厚さについては、800m未満のトラック種目は、ソールの厚さが最大20mm、中学・高校・一般の部の800m以上の種目は、最大25mm、フィールド種目は、最大20mmとする。

7. 練習について（会場使用上の注意事項）

- (1) 練習は、各個人及び監督の責任のもと、練習会場使用日程に示す時間帯で行い、事故防止には万全を期す。
- (2) サブトラックを練習会場として利用すること。利用時間…8:00～15:00

8. その他

- (1) 荷物・貴重品は各自で管理し、ごみも各自で持ち帰ること。
- (2) 救急、救護に関する処置は、大会本部で応急処置のみ行う。
- (3) 大会参加に際して提供される個人情報、本大会に利用するものとし、これ以外の目的には利用しない。
- (4) 観戦・応援について
 - ① 応援者同士が密な状態とならないよう、観客者の間隔を十分空けること。
 - ② 大声での声援を送らず、また会話を控えるよう心掛けること。
 - ③ マスクを着用すること。
- (5) 感染症対策については、別紙「感染拡大防止に関してのお願い」を参照すること。